

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.93 2023.6.21
 発行 寝屋川市自然を学ぶ会
 会長 山田 晃
 事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9
 千田 正喜宅
 TEL 090-4036-0719



モリアオガエルの卵塊を見る 2023.6.13 山門水源の森(中央湿原)

びわ

びわは
 やさしい きのみだから
 だっこ しあって うれている
 うすい 虹ある
 ろばさんの
 お耳みたいな はのかげに

まど・みちお

びわは
 しずかな きのみだから
 お日に ぬるんで うれている
 ママと いただく
 やぎさんの
 おちちよりかも まだ あまく

まどさんの詩の本 あのうたこのうた 理論社刊

目次

- (2) 行事報告 1 総会・記念講演
- (3) 行事報告 2 私市植物園・淀川背割堤地域の野草
- (4) 行事報告 3 丹波恐竜とカタクリ・山門水源の森
- (5) みんなでつくる自然資料室だより・子ども自然シリーズ講座
 ・大人自然シリーズ講座・自然資料室スタッフ研修会
- (6) ねやがわ自然塾 野外活動センターとの協働活動
 自然観察と環境整備① センター行事への協力
- (7) 蓼・協力行事 高宮田んぼの楽校、寝屋川市環境フェア
- (8) 自然はすばらしい シダ植物1「ワラビ」
- (9) 自然界のふしぎ 三葉虫1「三葉虫ってなあに」
- (10) 私の自然観察 身近な昆虫41「ヤブキリ」
- (11) 本の紹介・「みちてはひいて」 新会員紹介
- (12) 行事予定 子ども自然シリーズ講座④⑤⑦
 定例自然観察会 ③水生生物 ④秋の淀川
 みんなの掲示板 ③伊吹山

< 2023 年度総会 >

子ども達とともに自然体験の楽しさを!!

山田 晃



総会のような

4月29日(土)に寝屋川市民会館第1会議室で、2023年度の総会と講演会を開催致しました。参加者43名。例年通り、昨年度の事業報告の後、今年度の活動計画が決まりました。

・自然観察会への積極的な参加を今年度も!

定例の自然観察会でも、みんなの掲示板の観察会でも、多くの方が積極的に参加してくださり、淀川でも、私市植物園の観察会でも、興味深い観察が続きました。

今年度の観察会についても積極的にご参加下さい。

・身近な自然ガイドブック「秋の淀川」ができました!

一昨年から調査・編集・印刷にかかっていたが、この総会の日、第5編「新版春の淀川」に引き続いて第8編「秋の淀川」をお配りできました。この秋にはこのガイドブックの発刊記念の観察会も開きます。自然観察をより楽しくするための一助にこのガイドブックを活用しましょう。

・子ども達とともに自然体験の楽しさを!

自然体験学習室で活動する子ども達の顔も、小さな虫を探す目もキラキラして見えます。今年度の活動の中でも子ども達の参加とプログラムの充実のためにご協力よろしくお願ひします。子ども達とともに自然体験の楽しさを広げましょう。

<2023 年度 記念講演>

ますますおもしろい淀川の野草たち

～「秋の淀川」発刊に寄せて～

講師 本多政雄さん

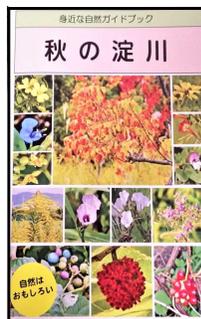


講演中の本多さん

2017年発刊の「春の淀川」に続いて、「秋の淀川」が発刊できました。春の淀川もおもしろいが秋もまたおもしろい、野草を軸に樹木やチョウやトンボも興味深い、そのようすを5つの観察地域と淀川全域の6つに分けて、その特徴にも触れて、楽しい興味ある解説がありました。

仁和寺地域のメリケムグラやヤノネボンテンカから始まって、点野地域のオニグルミやマルバヤナギそして太間・木屋元・出口地域のムクロジなど樹木も説明があり、また枚方・磯島地域で掲載されている明治時代に渡来し、高血圧に薬効があるというシャクチリソバなど次々と登場する植物の話はつきません。・・・あとは資料編を楽しみに。

この秋はこのガイドブックの本編を手に秋の淀川を楽しみ、そして詳しくは資料編を読んで、ますますおもしろい淀川の野草たちを実感してください。今年の秋の発刊記念観察会で本多さんの案内が楽しみです。



(山田 晃)

第 8 回自然観察会 私市植物園 3 月 21 日(火・祝) 参加者 53 名(内子ども 5 人)

枝垂桜のトンネルに感動

田中 英明

午後から雨との予報で、急ぎの観察出発となりました。初めに向かったオガタマの花は、今年すでに散っていました。

次に向かった河津桜とオオカンザクラはピンクの花が満開でした。どちらも親の一方が、沖縄地方など南方系のカンヒザクラといわれ、早咲きでピンクの花を咲かせます。

桜山に植えられたヤエベニシダレやイトザクラの道は、枝垂れた間を歩く度に感動を覚えます。近くでは白いスモモの花、少し奥ではキンキマメザクラの可愛い花が見られました。

期待の山野草ではカタクリ、キクザキイチゲ、ミスミソウが見頃で、セントウソウやイカリソウの花やキクバオウレンの果実も見られました。



シダザクラのトンネル



観察の様子



ミスミソウ



キクザキイチゲ

その他に見た花は、シキミ、ヒサカキ、ウグイスカグラ、ツノハシバミ、アブラチャン、サンシュユ、トサミズキ、コブシなどでした。最後にユリノキ広場でのティータイムのおもてなし。

雨も待ってくれて、目と口と心の温まる半日を過ごさせて頂きました。

第 2 回自然観察会 淀川背割堤地域 5 月 5 日(木・祝) 参加者名 26 名(内こども 1 名)

タンポポやオドリコソウの群生がきれいでした

久しぶりの淀川背割地域での観察会。さわやかな観察日となりました。子どもの参加もあり虫を追いかけたりする姿に元気をもらいました。田中さんの案内で、いつものように、駐車場から堤の端を回って戻るコースで観察しました。



オドリコソウの群生

最初、川の方へ歩くと、東部丘陵でほとんど見られなくなったキツネアザミが。コースのなかほどには、オドリコソウの群生が見事でした。名前の怪しい野草があるとタブレットやスマホで検索したりしながら、観察をする姿も。終わった後、皆でお弁当を食べたり、楽しい観察会でした。



観察の様子

参加者の感想

上枝 美津枝

身近な淀川に、こんなに豊かな自然の景色と春の植物や生物の世界の広がり感叹！

歩き始めるとすぐに土手一面タンポポの群生がお出迎え。タンポポを見ているだけで、自然環境の変化がわかると言われてます。都市部では造成地が広がり、外来種が猛烈に増えたが、最近の調査では開発が落ち着いてきて在来種が戻ってきてると、府の調査でわかってきました。たった一つの野草の観察でも、自然界の動きを垣間見れるなんて凄い。やはり自然と人の営みは切り離せず、上手に共生していく必要があるのですね。植物一つでも、それをきっかけに環境の大切さを、社会に、次世代に伝えたいです。この日は他にもオドリコソウ、ノイバラ、ヘラオオバコ、トキワハゼ、カスマグサ、ニワゼキショウなど、いつもの花が咲いていて、虫や蝶も良くみかけました。ヨコヅナサシガメも大きな木の幹にしがみついている姿が印象的でした。まだ初心の私ですが、スタッフの皆様の今まで培われた事を大切に、これから自然との触れ合いを楽しみにしたいと思います。本当に素敵な春の一日を有難うございました。



タンポポの群生

第1回みんなの掲示板 丹波恐竜とカタクリ 4月5日(火) 参加者28名

喜びと感動で幸せいっぱい

中村 清秀

地球温暖化のせいか、春の訪れが例年より早く感じる4月始めに、子ども1名を含む28名の参加者と共に、1億4千年前の白亜紀の世界の丹波路へタイムスリップ。

バス内で西村先生から恐竜の話聞きながら、桜満開の篠山川沿いを走ること20分。大きな丹波竜のモニュメントが迎える丹波竜の里公園に到着です。有難いことに、丹波竜化石の第1発見者の村上茂さんに、ガイドをして頂きました。遊歩道を歩きながら村上さんの話に皆さん興味津々、質問攻めにあう村上さんでした。化石発見場所では村上さんを囲んで集合写真を撮ったり、あっという間の1時間でした。



丹波竜発掘地の見学

近くの公園で昼食をとった後、「ちーたんの館」を見学。再現された丹波竜の実物大の全身骨格の大きさにはびっくり。他にも多くの恐竜の全身骨格が展示されており、思わず見いってしまいました。恐竜好きの子どもは模型の恐竜の頭の組み立てに奮闘。その顔は喜びで一杯でした。



白いカタクリ

再びバスに乗り込み、東経135度(日本の子午線)の標石を過ぎて清住カタクリの里へ。入口ではニリンソウが出迎えてくれました。斜面一面に咲くカタクリの花には皆さん感動の様子。遊歩道の半ばで幸せを呼ぶという白いカタクリの花を見つけ更なる感動が。皆さんに幸せが来ますように。

喜び、感動、幸せ。そんな言葉がピッタリの今回の観察会でした。

第2回みんなの掲示板 山門水源の森 6月13日(火) 参加者25名

自然がつくる造形美

中村 清秀



観察の様子

梅雨入りの中、天気予報が気になる中の観察会。25名の参加で寝屋川を出発。琵琶湖を眺ながら湖西道路をひた走り、道の駅「あどがわ」で休憩後、『山門水源の森』に到着。入口で外来植物の侵入を防ぐため靴底を洗って入場。

前日の雨で沢道がぬかるんでいましたが、ツルアリドウシやサユリの花を見ながら、無事中央湿原に。見上げるとキムネクマバチが、足元にはギンリョウソウが。木道を進むとコアジサイやレンゲツツジが映えていました。モリアオガエルの卵塊も見られ

ました。中でも高本さんがモリアオガエルをカメラに収め、緑色に染まった美しい姿に感激。

昼食後、尾根道できれいな色のチョウが翔んでいるのを見て、参加者の一人が思わず“自然界の造形美ですね”と。管理小屋の前の湿地で1円玉と同じ位の大きさのハッチョウトンボも見つけました。この地の保全に尽力されている人々に感謝です。

深緑の『山門水源の森』の地で、生き抜くために多彩な色を身につけた動植物。

自然がつくる造形美に感謝した観察会になりました。



モリアオガエルと卵塊

みんなでつくる自然資料室だより

□子ども自然シリーズ講座

①「キラキラスコープ作り」

4月22日(土) 子ども5名(他12名)

塚本さんの光がわかれて虹になるなどの話の後、筒に分光板を貼ったキラキラスコープを作ります。申込者が少なかったため、付き添いの大人の方も一緒になり、親子で話しあい簡単な模様を針で穴をあけるなど、少しずつ組み立てて行きました。作り終わって、筒をのぞきながら「今度は、違う模様を作りに来ようか」と相談されるなど、楽しいひと時を過ごしていました。



うまく貼れるかな

②「変身ボックス作り」

5月20日(土) 子ども9名(他16名)

オタマジャクシがカエルに、幼虫がカブトムシに、ヒヨコがにわとりにと一瞬のうちに变身します。子どもたちは、变身させるものを選び、用意された牛乳パックを組み立てていきます。はさみで切ったり、のりで貼ったり、穴にひもを通して作って行きました。最後に、色紙などを使ってボックスを飾りました。そして、作ったボックスの变身ぶりを周りの人たちに自慢気に披露し、満足していました。きっと、家に帰っても・・・。



切れたかな

□大人自然工作シリーズ講座

①「写真立て作り」

5月15日(月) 参加者13名

木の板や輪切にしたもの、枝やどんぐりなどを組み合わせて写真立てを作ります。剪定ばさみで枝を切ったり、グルーガンでのり付けしたりして仕上げていきます。周りの人の作品を参考にして、もう一つ。まだ時間があるので、もう一つと1人で3から5個作っておられました。家に帰って、お気に入りのどんな写真が入るのでしょうか。



見本を参考にして!

□自然資料室スタッフ研修会

山田池公園 6月8日(木) 参加者13名
～公園の自然・野鳥の観察～

今にも雨の降りそうな天気でしたが、第1駐車場に集まり山田池を右回りに散策しました。ウグイス・オオヨシキリの元気な声を聞きながら、池の見える所で鯉とヌートリア、カイツブリの親子に出会いました。カイツブリの子どもは親の羽の中でかわいい顔をのぞかせています。「親子を観るのは、ここでは初めて」の声。色とりどりのハナショウブを見た後、ハンゲショウ、コウホネ、アジサイナギイカダ、キンバイカなどの植物に出会いました。雨に会うことなく楽しく散策できたと思います。



花しょうぶ園にて

□ねやがわ自然塾（第6期）

○第1回講座 4月14日(金)

「始めよう自然観察」

- ①開講式
- ②自然観察の楽しみ方
- ③寝屋川市の自然



学習室にて

○第2回講座 4月28日(金)

「春の野草」

- ①東部丘陵の自然の話
- ②東部丘陵の野草観察



東部丘陵で観察

○第3回講座 5月12日(金)

「身近な樹木①」

- ①樹木の葉の形から名前を調べる
- ②寝屋川公園の樹木観察



寝屋川公園で観察

野外活動センターとの協働活動

◇第1回自然観察と環境整備

6月6日(火)

協力者 18名

午後からの雨予報の中、今年度最初の自然観察会と環境整備を行いました。18人もの参加があり、名札の紐の付け替え、蛍広場の階段のそうじ、石垣の草抜き、森の広場への通路の整備、蛍広場の草刈り、小川の橋の整備、昼食作りと手分けして作業をしました。気温は低めでしたが、作業をしているとひと汗かきました。



橋の修復

昼食は、トッピングが盛りだくさんの冷やしうどん、コーンの炊き込みご飯のおにぎり、果物で、おいしくいただきました。

小雨が降ってきたので、観察会は近くの野草やアリジゴクの観察をし、予定より早く解散しました。



観察の様子

◇野外活動センター行事への協力

寝屋川めぐみ園

5月24日(火)

園児 22名

協力者 4名

あいさつの後、目隠しをして、張ってあるロープをたどって一周するゲーム（暗夜行路）。見えない不安の中、ロープをたどってゴールするとほっとした顔やできた満足感が見られたりしました。その後、アラカシの恐竜づくり、寒谷池、森の広場での虫や葉のお話など森の探検を楽しみました。虫が好きなお子が多く、捕まえては協力者に聞いていました。「森の中を歩くだけでも楽しかった」など楽しかったようです。最後の、どんぐりペンダント（材料）のおみやげに大喜びでした。



暗夜行路をする子どもたち

参加・協力行事

◇高宮田んぼの楽校 ～レンゲ畑でおもいっきり楽しんだよ！～

4月24日(月) 協力者9名 市2名 地元9名

東小学校の2年生(108名)を対象にしたレンゲ畑での自然観察会が開かれました。予定していた日は天気が悪く今日に延期されました。「高宮地区の農地の今後を考える会」が企画し本会が協力しました。米作り、田んぼの野草やレンゲソウとミツバチの話をかいたあと、クラスごとに分かれて田んぼに入りました。9種類の野草を見つけるビンゴをしたり、花を摘んで首飾り作りや草笛に挑戦したり、虫を観察したり、カエルを追いかけてたりして、自然をおもいっきり楽しんでいました。「楽しかった」「花の指輪が



野草や虫の楽しいお話



カエルいないかな！

できてよかった」「ビンゴができてよかった」など楽しい感想が聞かれました。

後日、道端の野草に関心を持っている子に出会いうれしかったです。



ビンゴできた！！

◇寝屋川市環境フェア ～どんぐり工作楽しかった！～

6月11日(日)

参加者約200名

協力者20名

前夜からの雨で、テントの下に水たまりができ、水かきからの準備でした。本会からはパネル展示と手作りコーナー（どんぐり工作、ブンブンゴマ、どんぐりペンダント）で参加しました。小雨が降っていましたが、テント裏に雨除けのブルーシートを張ってどんぐり工作の場所を確保しました。

雨なので、参加者は少ないだろうと思っていたところ、



どんぐり工作

結構参加者があり、どんぐり工作は満杯状態で、楽しんで作っていました。「子どもが、ここが一番面白かったと喜んでいました」「これをしたくて来た」という声が聞かれました。ブンブンゴマはコマの色塗りを楽しんでいました。回すのが難しく、うまく回せるとうれしそうでした。どんぐりペンダントは、小さな子に、できたものをあげると喜んでいました。孫のおみやげにと持って帰られる方も。

小雨の中、たくさんの方が参加してくれてよかったです。



学ぶ会のブース 奥で、ブンブンゴマ

「ここが一番面白かったと喜んでいました」「これをしたくて来た」という声が聞かれました。ブンブンゴマはコマの色塗りを楽しんでいました。回すのが難しく、うまく回せるとうれしそうでした。どんぐりペンダントは、小さな子に、できたものをあげると喜んでいました。孫のおみやげにと持って帰られる方も。

自然はすばらしい シダ植物シリーズ 1.

ワラビ 蕨 *Pteridium aquilinum* (L.) Kuhn (広義)

天野 史郎

今回からシダ植物シリーズをはじめることになりましたが、きれいな花は好きなんだけど、シダやコケはちょっと、という方は植物好きにも多いのではないかと思います。それでも、食べられるシダとなると興味がそそられるのではとおもい、山菜としてなじみ深いワラビをとりあげてみることにしました。まず、人々とシダ植物とのつきあいを、たどってみましょう

古くは紀元前1千年、古代中国の周王朝の時代のことをしるした史記列伝・伯夷伝にワラビが登場します。もっとも、これはゼンマイとしているものもあります。伯夷と叔斉は、紂王を討とうとする武王を諫めるものの受け入れられず、山にこもって餓死してしまいます。この話は列伝のトップにおかれてあるので、伯夷と叔斉は聖人の中でも別格なのでしょう。

国内に目を向けてみると万葉集・巻八の巻頭をかざる歌にワラビが読まれています。

石ばしる 垂水の上の さわらびの 萌え出づる春に なりにけるかも

教科書にもものっている有名な志貴皇子の和歌です。初句の「石ばしる」は古来より「石そそぐ」と読まれていたそうですが、江戸時代の国学者・賀茂真淵が「石ばしる」と訓をつけてからこの読みが主流になったとのこと。



葉を展開したワラビ

ところで、ワラビは日当たりのよい場所に生えるので、滝（垂水）のあるような溪谷とは生育環境が違います。そこで植物研究者がワラビではなくヤシャゼンマイ説をとえなしました。たしかにヤシャゼンマイは溪谷に生えるので環境としてはぴったりあいます。しかし作者は自然を写生したのではなく、春の喜びを表現するための素材として、豊かな水、恵み食物＝植物を読みたかったのだと思います。

ワラビは日本全国に分布し、日当たりのよい場所で見られます。茎は地下を長くはい、これを根茎とよびます。根茎の各所から芽をだし、葉が展開すると 1mを超すほど

に生長します。葉のふちは裏側に巻き込み、胞子のう（図1）をつけます。胞子のうには決まった数の胞子が入っています。しかし胞子のうをつけた葉は比較的少ないです。おそらく、よく草刈りされるような場所に生えるためでしょうか。

かつてはイノモトソウ科に分類されていましたが、イノモトソウ科があまりにも内容の幅が広すぎるということで分割され、現在ではコバノイシカグマ科に属しています。分類もよく変わるのでおぼえるのが大変です。

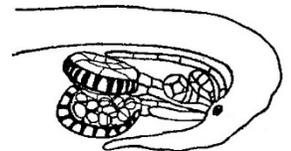


図1
葉に巻きこまれた
胞子のう
(伊藤洋著しだより)

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「火山のふしぎ1~4」に続いて、今年度は「三葉虫シリーズ」をお届けします。

三葉虫シリーズ1

「三葉虫って なあに」

西村 寿雄

みなさんは「三葉虫」という化石を見たことがありますか。
この写真のような姿をみると思い出されるでしょう。古生物の教科書などでも必ず出てくる奇妙な形の化石です。

生きていた時代は、約5億年前の古生代、カンブリア紀から石炭紀の初めまでの期間です。単細胞生物の時代からやっ和多細胞の生物が現れ出した古生代という時代です。約5億年から3億年前という長い間、こんな奇妙な形の生物が海の中に生きていたとは驚きです。

形は、まるでダンゴムシみたいで、頭には大きな口があるようでないようで、目があるようでないようで、体ははっきりと縦に三つに分かれています。そして、たくさんの細かい横向きの筋は、これはいったいなんなのでしょう。ムカデのように足になっていたのでしょうか。でもどうも背中にあるので足でもなさそうです。

写真は、5億年前に生きていた三葉虫の化石です。化石は当然固い部分しか残っていません。この固い部分からみなさんはどんな生き物を想像されますか。

実は、この化石は日本では東北地方の一部で出るのみでほとんど見かけません。しかし、アメリカやモロッコなど外国にはたくさん出ています。ですので外国では早くからこの化石を見ていろいろ不思議がって研究した人がいました。

次回から、その人たちの研究成果も取り入れながらこの奇妙な生き物三葉虫のなぞに迫っていきましょう。



地質年代と生物の進化

地質時代の区分	何年まえか	栄えた動物	栄えた植物	おもな生物
新生代	第四紀	哺乳類の時代	被子植物の時代	ヒト、ウマ
	第三紀			メタセコイア、首長竜
中生代	白亜紀	大型爬虫類の時代	裸子植物の時代	ケモノ竜、アンモナイト
	ジュラ紀			始祖鳥
	三畳紀 トリアス紀			
古生代	ペルム紀	両生類の時代	シダ植物の時代	ソテツ、イクチオステガ
	石炭紀			
	デボン紀	魚類の時代		セハラスピス
	シルル紀			ロボク
代	オルドビス紀	海に棲む無脊椎動物	藻類の時代	サンゴ
	カンブリア紀			三葉虫、海藻、腕足貝
先カンブリア時代	原 生 代	生物の発生 かんたんな体つき生物		多細胞生物、藻類、クラゲ類
	始 生 代			単細胞生物

井尻正二・畑田進『生きている化石』改題

私の自然観察

身近な昆虫 41 —ヤブキリ—

高本 憲二

最近、笠岡の実家にいることが多い。実家の庭にビヨウヤナギがあるのだが、その花が咲くとキリギリスに似た虫が集まってくる。まだ成虫になりきらないヤブキリの幼虫です。もう少し前にはあぜ道のタンポポの上にいる小さな幼虫をよく見かけていました。

ところでこのヤブキリはどんな昆虫なのでしょう。最近話題のチャット〇〇が話題となっていますが Being でもできるようになったので AI に質問してみました。



●ヤブキリについて教えてください

ヤブキリは、バツタ目キリギリス科の昆虫です。藪に棲むキリギリスという意味で、日本の本州、四国、九州に分布しています。体長は45-55mm前後で、体色は緑が普通ですが、まれに黒褐色になるものもいます。羽は腹端より僅かに出て、背面に褐色の筋があります。大顎や脚の棘が発達しており、肉食性が強く、他の昆虫や小動物を捕食します。鳴き声は「シリリリ…」や「ギー…」と聞こえます。メスの産卵管は長くてまっすぐに伸びています。

びています。

ヤブキリはキリギリスやウマオイと似ていますが、羽の大きさや模様などで見分けることができます。キリギリスは羽が腹部より長くて、背中に二本の線があります。ウマオイはメスの羽が小さくて、産卵管が上方に曲がっています。また、ヤブキリは警戒心が低くて人に対しても平気であることが多いです。

●ヤブキリの幼虫はどんな生活をしていますか

ヤブキリの幼虫は、主に花粉や花卉を食べている昆虫です。しかし、成長するにつれて肉食性が強くなり、他の昆虫や小動物を捕食するようになります。大顎や脚の棘が発達して、獲物を捕まえやすくなります。背中に一本の濃い褐色の線があるのが特徴です。樹上や藪などに住んでいます。



●ヤブキリはどこに卵を産みますか

ヤブキリは、土の中に卵を産みます。卵は黒色か褐色で、半年から2年後に孵化します。多くは翌年の春に孵化するそうです。ヤブキリの幼虫は、主に花の花粉や草などを食べます。成長すると肉食性が強くなり、昆虫や小動物も捕食します。飼育する場合は、脱皮の場所や水分の確保が重要です。また、アリに注意しなければなりません。

実家の庭では↓のような黒褐色のものをよく見かけます。どのような条件で黒褐色のものと緑色のものが発生するのでしょうか。これも AI に質問してみました。

●黒褐色のヤブキリはどのような環境下で発生するのでしょうか



黒褐色のヤブキリは、ヤブキリの中に稀に見られる黒化型と呼ばれる変異個体です。ヤブキリは日本全土に分布するキリギリス科の昆虫で、普通は全体が緑色で背部が褐色ですが、黒化型は足や頭部などが黒っぽくなります。黒化型の発生原因やメカニズムは明らかになっていませんが、遺伝的な要因や環境的な要因などが考えられます。黒化型は普通型と同じように樹上や草丈の高い場所で生活し、様々な植物や昆虫を食べます。鳴き声も普通型と同じで、夜に「シリリリ…」と鳴きます。

便利な世の中になりましたね。

皆さんは AI をどのようにつかわれるのでしょうか？ このような使い方は便利ですが、あまりお勧めはできませんね。

今回は、AI の紹介ということでご勘弁ください。なお、言い訳ではありますが、写真はすべて筆者個人のものでした。

図書紹介

～こんな本が出たよ～

『みちては ひいて』 ちいさなかがくのとも

澤口たまみ/ぶん 山口哲司/え 福音館書店

小さな子ども向きだが、浜辺での波の進みぐあいを同じアングルで描いて、変化していく波の進み具合と高さをそれとなしに表現している。水面が上下する原因については本文ではふれられていない。へんに理屈を述べるより、小さな子どもに「海ってふしぎだな」と感じさせれば十分である。科学読み物の一つのスタイルと言える。そしてなんととっても子どもに興味あるのは海の生き物である。岩場の間にある水たまり(タイドプール)も時々出てきて、「こんな小さな水たまりにもいろんな生き物がいる!」と子どもに興味をつなげている。



さて、本文。最初のページは朝早くの〈暗い海〉の場面から始まる。波は静かで浜辺の階段の少し手前まで波が来ている図になっている。暗い浜辺の絵である。次の絵は、浜辺の波が前回の図より少し手前に来ていて波は荒々しくしぶきをあげている。やがて夜明けだ。さらに日が昇ってくると今度は浜辺の波がぐっと後退していて堤防の先の方で波打っている。こちらの浜辺はうんと広がった。今まで埋もれていた岩場も顔を出している。浜辺にやって来た子どもが岩場のすき間に出来た水たまりを興味深くのぞいている。次のページはその水たまりのクローズアップの絵だ。絵は少しデフォルメされているが、わかめやコンブの海藻らしきもの、ウニもいる。巻貝もちらほら、小さな魚やエビも泳いでいる。フジツボも見える。この小さな水たまりは生き物であふれかえっている。次に描かれているのはもう昼過ぎの場面、浜辺の水はまた堤防の中ほどまで来ている。次ページでは波の勢いも心なしか増している。あの小さな水たまりにも水が入り込んできた。次ページはもう日暮れ時、あの岩場も波にかくれて見えなくなった。浜辺はまたもと通りのように小さくなった。そして、月のぼる頃、また浜は引き始めた。波打ち際の線が行ったり来たりほぼ一日でくりかえしていることをこの絵本では描いている。大人向けにはあとの解説で潮の満ち引きの原因や磯での生態についても解説がある。磯遊びに行く時のタイミングや注意事項なども含めて書かれている。子どもを連れて磯遊びに行く時の参考になる。

2023年2月 440円 <西村 寿雄>

お知らせ

積水ハウスマッチングプログラムに応募し、「**積水ハウス子ども基金**」という名で助成金をいただきました。

まず本会の活動をより幅広く進めるため、新しくプリンターを購入しました。今後、子どもの活動を中心に有効に活用していこうと思います。

新会員紹介

会員数156名

(6月21日現在)

石田 昇 大堀博子

鎮田幸子 平本裕美

野々村キクエ

(敬称略)

行事予定

□第3回定例自然観察会

寝屋川の自然観察 ～水生生物～

- ◇日時：2023年7月9日(日)
9:30～12:00 雨天中止
- ◇集合：寝屋川市役所玄関前 9時15分
又は直接活動場所へ 9時30分
寝屋川市環境総務課と共催です。
*詳しくは連絡資料①をご覧ください。

□第4回定例自然観察会

秋の淀川・点野野草地区

～秋の野草もおもしろい～

- ◇日時：2023年9月23日(祝・土)
9:30～12:00 雨天中止
- ◇集合場所：淀川・太間公園 駐車場付近
- ◇集合時刻：午前9時30分
- ◇持ち物：水筒、雨具等(昼食をとる人弁当)
- ◇案内：本多政雄さん
身近な自然ガイドブック「秋の淀川」
発刊記念行事として実施します。
参加の申し込み不要、当日集合場所へ

□第3回みんなの掲示板

伊吹山 (高山植物)

- ◇日時：2023年8月22日(火)
7:30～18:30 雨天中止
- ◇集合：アルカスホール前 7:30
- ◇参加費：5,500円程度 定員25名
- ◇参加申し込み：8月15日までに下記へ
中村 090-8750-5738 千田 090-4036-0719
*マイクロバスを利用します。



イブキフクロ



ササユリ 山門水源の森

子ども自然列-ズ講座

<第4回>

「夏休み自由研究のヒント」その1

- ◇日時：7月15日(土) 10:00～12:00
- ◇参加対象：小学校1～3年生 20名
- ◇プログラム
 - ①「生きもの大好き」～昆虫の観察～
 - ②「身近な野草の観察」
 - ③楽しい工作「のぼれカブトムシ」

<第5回>

「夏休み自由研究のヒント」その2

- ◇日時：7月16日(日) 10:00～12:00
- ◇参加対象：小学校4～6年生 20名
- ◇プログラム
 - ①「昆虫観察日記をつけよう」
 - ②「木の葉もおもしろい」
 - ③楽しい工作「マジック4目」

<第7回>

「楽しい科学実験」

～ドライアイスのふしぎ～

- ◇日時：8月5日(土) 10:00～12:00
- ◇参加対象：小・中学生 20名

*4・5回参加者には、メダカのプレゼントがあります。

*参加費 無料

*会場：自然体験学習室 Tel 072-839-6882
中央図書館西分室内

*参加申込：7月2日(日)より 先着順
直接又は電話で自然体験学習室へ

編集後記

梅雨に入り、アジサイやショウブの美しい時期になりました。会報93号をお届けします。

積水ハウスマッチングプログラムの助成で、プリンターを新調し、今号からカラーを4ページにできました。自然観察をより楽しくできればと思っています。

今年度も、会員の皆さんの感想や会報原稿をよろしくお願ひします。